



図3 モリソンパンフレット ((公財) 東洋文庫所蔵)



図4 モリソン蔵書票

科学史から見た西洋博物誌——日本との関係——

塚原 東吾

(神戸大学大学院教授)

科学史研究におけるシーボルトをはじめとする西洋博物誌（ナチュラル・ヒストリー）についての近年の成果を検証して、日本との関係を書誌学史的に考察し、科学史関連書誌の発展と歴史的意義を考える。

1. シーボルト：自然史・日本との関係、「冷凍保存された江戸時代」
 - ・近代化論，直線的な進歩史観を超えた多体的文化触変モデルへ
2. ツンベリー：リンネ主義の「使徒」
 - ・中川淳庵と桂川甫周とツンベリーの接触
 - ・「インフォーマント」との接触
 - ・『日本植物誌』
3. リンネ：「近代化」論
 - ・18世紀の「理性」（と革命の時代）
 - ・博物誌と『百科全書』，18世紀の寵児
 - ・「使徒」（西村三郎）たち
 - ・リンネによる体系化：「性」による体系，「神」の御技の希求
 - ・「視線」を問うこと。オランダ東インド会社とルンフィウス（アンボイナの貝）
 - ・ガリレオ主義の18世紀的展開
 - ・実験室科学，「微視化と比較（解剖学）」，分析（による一点突破）
4. フンボルト：フンボルト主義科学（F. キヤノン）
 - ・実験室科学とフィールド科学の「融合」
 - ・地球という「実験室」，器具・機器の利用による「数量化」革命

5. クロスビー：「コロンブスの交換」概念，ヘッドリク：科学と帝国主義
- ・共通の主題：「数量化・情報化 quantification/information technology」（「質と量」の問題，化学でいう定性分析と定量分析，知識のテクノロジー）
 - ・植民地科学：オランダの「科学制度」，バタビア・パラダイム
 - ・知識「搾取」，知識「収奪」（ヘッドリクは厳密に技術について）
 - ・「オリエンタリズム」（E. サイド）
6. ガリレオ科学と科学社会学（CUDOS と PLACE）の知見
- ・ガリレオ科学の3つの要素：数学・機器・実験。自然史も例外ではない。
 - ・リンネ的分析（性分類体系）と，フンボルト主義科学（世界に拡大した実験室）
- * 17～19世紀的な科学（の理想像）と，20～21世紀的な（産業化された）科学（の現実）という対比

使用資料：

シーボルト『植物誌』・『動物誌』・『日本』（図5）

ツンベリー *Flora Japonica, Sistens plantas insularum Japonicarum, secundum systema*

アジア鳥類シリーズ



図5 『日本植物誌』P. R. v. シーボルト著 1826-70年
ライデン刊（（公財）東洋文庫所蔵）